大阪医科大学附属病院 広域医療連携センター

MIZUKI

医療連携室ニュース「みずき」

〔volume〕35

2017 SEPTEMBER

写真:リンドウ

CONTENTS

（心臓血管外科）TAVI（経カテーテル的大動脈弁植込術）について

救急医療部特集

モットーは「救急医療は医の原点」！
～増え続ける救急患者への対応～

救急外来看護師の役割

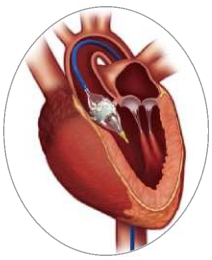
（神経内科）パーキンソン病診断の進歩

（形成外科）リンパ浮腫外来のご案内

医療連携室からのお知らせ

編集後記

TAVI（経カテーテル的大動脈弁植込術）について



大動脈弁狭窄症は重症化すると心不全や突然死を引き起こす極めて危険な疾患です。この根治手術は現在でも大動脈弁置換術ですが、開胸し、人工心肺装置を用いて心臓を止めた状態で行う必要があります。多くの患者さんはこの侵襲に十分耐え、良い結果と共に社会復帰されます。ところが患者さんの様々な医学的条件により、この標準的な手術が不適当、あるいは非常に危険が高いと判断される場合があります。経カテーテル的大動脈弁植込術は、カテーテルを大腿動脈などから挿入し、心臓を止めずにステント弁を大動脈弁の位置に植え込む手術です。根治性では大動脈弁置換術に劣りますが、身体的な負担が小さく、術後の回復も速やかである可能性があります。活動能の低下や体力の衰えが著しいなどの理由で、今まで手術をためらわれてきた患者さんには、特に有効と考えられます。心雑音があるものの超高齢で精査されていない、あるいは何らかの理由で手術を諦められた場合など、本院心臓血管外科あるいは循環器内科に是非ご紹介ください。ご紹介の際は本院医療連携室にてご予約をお願いします。

心臓血管外科
医長
小澤（おざわ） 英樹（ひでき）

救急医療部特集

モットーは「救急医療は医の原点」！
～増え続ける救急患者への対応～

救急医療部 科長 高須（たかす） 朗（あきら）

我が国における平成28年度の全国の救急出動件数は年間621万件、そして搬送人員数は562万人で救急診療の需要はますます高くなっています。急性期を含めての包括的地域一体型医療圏の構築をも見据えて、本院の救急医療部では平成25年度から以下について取り組んでいるところです。

① 救急車ホットライン開設
② プロ意識を持った救急医療の展開
③ 各専門科との連携強化
④ 魅力ある救急医学教育
⑤ リサーチワークの充実化

上記の取り組みもあり、本院での昨年度の救急外来受診数および救急搬送件数は平成24年度に比べてそれぞれ３割と５割増加し、7324件（救急外来受診数）と2791件（救急搬送件数）となりました。各医療機関さまからの救急搬送も医療連携室を通して、救急診療を行えるように体制を構築しています。ご紹介患者さんの病態に応じて、受診する診療科が明らかな場合であっても、緊急度や重症度を考慮して救急医療部でのトリアージで救急診療をよりスムーズに行えるよう調整しています。救急疾患やけがは時と場所を選ばず突然起こり、平穏な日常を脅かします。地域の皆さまが安心して暮らしていけるように今後とも「救急医療は医の原点」をモットーに活動していきます。

救急外来看護師の役割

救急看護認定看護師 濱田（はまだ） 恵美（えみ）

本院は大阪府指定二次救急医療機関、日本救急医学会救急専門医指定施設です。救急医療部は平成13年に開設、その開設と同時に救急外来が設置されました。救急様式は、基本各診療科が診療を行います。そのため救急外来看護師は全診療科に対応しております。

〈組織横断的な関わり〉

救急外来を受診される患者さんの看護以外に、心臓カテーテル、脳血管造影など侵襲度の高い検査介助や、院内急変患者対応など部署を越えて行っています。

〈チーム医療を大切に〉

医師、技師、薬剤師、事務職員など多職種が一丸となり患者さんの治療、処置が行えるよう調整役を担っています。図1のように救急外来受診数、救急搬送件数は年々増加しております。看護師は、知識･技術において更なる向上を目指し日々精進していきます。

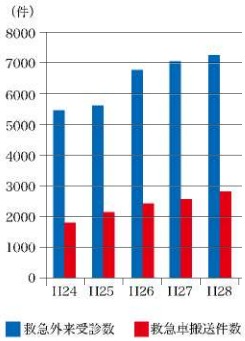


図1 本院における過去5年間の救急患者動向

神経内科

パーキンソン病診断の進歩

神経内科 科長 荒若（あらわか） 繁樹（しげき）

パーキンソン病の診断

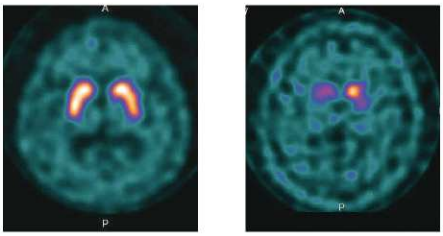
パーキンソン病は神経内科の代表的な病気です。安静時振戦といった特徴から診断しますが、神経内科専門医でも診断正答率は80%程度とされています。この状況を画像診断が変えています。

核医学検査の進歩

例えば、薬剤性パーキンソン症候群が疑われる場合、脳のドパミン神経細胞を評価するダットスキャンが有用です（図1）。パーキンソン病と違いドパミン神経細胞が保たれていることが明瞭にわかり、薬剤中止による症状の改善が期待できます。しかし、薬剤を中止しても改善が軽微のことがあります。この場合、ダットスキャンで潜在的なパーキンソン病を見出すことができます。また、多系統萎縮症といった治療効果の乏しい疾患の鑑別にMIBG心筋シンチが有用です。

適切な治療の提供を目指して

当科では、診察と画像所見から総合的に診断し、薬剤を選択しております。診断に迷われる、治療で困られているケースがありましたらご相談ください。ご紹介の際には本院医療連携室にてご予約ください。専門的な立場から皆様のお役に立てることを願っております。



（正常）　（パーキンソン病）

図1 ダットスキャン検査。正常（左）。パーキンソン病では右側優位に減少（右）。

形成外科

リンパ浮腫外来のご案内

形成外科 塗（ぬり） 隆志（たかし）

本邦におけるリンパ浮腫の発症原因のほとんどが、骨盤内や腋窩のリンパ節廓清や放射線照射など、癌の治療による後遺症です。リンパ浮腫は一旦発症すると進行性であり、浮腫の早期発見と治療が患者さんのQOL維持にとって非常に重要になります。

本院形成外科ではリンパ浮腫外来を開設し、癌治療後の四肢リンパ浮腫に対して生活指導や弾性着衣の処方、リンパドレナージ（マッサージ）の指導から、顕微鏡手術によるリンパ管静脈吻合まで行っております。リンパ管静脈吻合は約1cmの切開から皮下のリンパ管を同定し、皮静脈へバイパスすることで特に早期の患者さんの浮腫の軽減や蜂窩織炎の発症軽減を認めております。また、入院中にリンパドレナージの指導を行い、患者さんが自分で浮腫のケアを行えるように指導を行っております。手術実績は年々増加しており、当施設は近畿圏で最も多くのリンパ管吻合術を行っております。

リンパ浮腫専門外来は、月曜日と水曜日に行っています。ご紹介いただく際は本院医療連携室にてご予約をお願いします。

前立腺癌術後の両下肢リンパ浮腫
（左：術前、右：術後1年　患者さんの承諾を得て掲載）

担当表

	月	火	水	木	金
午前	初診・再診 岩永 紘征		初診・再診 塗 隆志		

医療連携室からのお知らせ

「第5回紹介医療機関と大阪医科大学病院との連携強化のつどい」を開催しました

日頃、本院と連携いただいている地域の病院・クリニックさまを対象に、9月16日（土）大阪新阪急ホテルにて開催しました。

今年度は、本学法人の現状報告のあと、一般・消化器・小児外科、心臓血管外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科から「連携のさらなる発展をめざして」をテーマにプレゼンテーションや、大阪医科大学三島南病院の現状報告を行いました。

懇談会では、日頃からお世話になっている多職種の方々と和やかに懇談の場をもつことができました。

お忙しい中ご出席いただきました皆様には心から御礼申し上げます。

編集後記

久々の東京への出張、時間調整のため駅前をぶらついた。靴磨きのパラソルが日に入った。炎天下、灼熱の中で、老いた婦人が黙々と作業をしている。

客は私の前に一人だけ。丸椅子に腰掛け、自分の番を待つことにした。

前の客と婦人が何やらやっている。チップを受け取れ、受け取らないの押し合いが続いている。固辞して曲げない婦人の姿勢に、最後は客が折れた。

白分の番になる。流れるような手さばきで事が進む。所作の一つひとつに無駄がない。瞬く間に、私の革靴は重厚な光沢を放ち、新しい靴へと生まれ変わる。

汚れたものを綺麗に変えるものとは違う、何か心をゆり動かすものがあった。

釣りを受け取る際には「良い靴をお履きになられています。大切になさってください。」とやさしく靴への愛情を告げられた。

単なる靴磨き。いや、真剣勝負の眼差し。無駄な時の刻みを負わせない。施しなど受け取らない。

本当の心くばり。道を極めた人がもつ、高い気概と誇りを感じた。

婦人は、この駅前の広場の誰よりも輝いていた。革靴は、出張から帰った今でも輝きを失わない。（M・M）

医療連携室ご利用のご案内

医療連携室「FAX紹介申込書」受付時間

平日／8:30～20:00　土曜日／8:30～12:00

※第2･第4土曜日は休診です。

※FAX受信は24時間可能（休診時も含む）。

但し受付時間以外の受信については翌診療日以降の対応となります。

大阪医科大学附属病院広域医療連携センター医療連携室

〒569-8686　大阪府高槻市大学町2-7

● TEL.072-683-1221（大代表）内線2308

● TEL.072-684-6338（医療連携室直通）

FAX **送信先 FAX 072-684-6339**

本院専用のFAX紹介申込書及び封筒をご用意しております。
ご利用の場合は、電話またはFAXにてご請求ください